

2022年 3月期 第2四半期 決算説明会 資料

誇れる歴史がある
創りたい未来がある



株式会社 浅沼組
証券コード：1852

この資料には、弊社の業績予測並びに将来の見通しに関する記述がございます。
これらの記述は、現在入手可能な情報及び将来に影響を与える不確実な要因に係る仮定に基づいており、実際の業績などは様々な要因により大きく記載と異なる結果になる可能性があります。

誇れる歴史がある
創りたい未来がある



ページ	項目
P 3	2022年 3 月期 第 2 四半期の通期計画に対する進捗
P 4	受注の現況
P 5	リニューアルの現況
P 6	中期 3 ヶ年計画の主な施策
P 7	『ReQuality』 リニューアルブランド戦略の推進
P 8	独自技術である「Ai-MAP SYSTEM」の高度化
P 9	協力会社との協働推進
P 10	「エコフレンドリー-ASANUMA21」の推進
P 11	コーポレート・ガバナンス
P 12	Topix

2022年3月期 第2四半期の通期計画に対する進捗



(単位：億円)

主な指標（連結）	2022/3期				
	通期計画	Q1実績	進捗率	Q2実績	進捗率
受注高	1,321	287	21.7%	590	44.7%
完成工事高	1,390	291	21.0%	592	42.6%
完成工事粗利益	136	23	17.0%	56	41.0%
完成工事粗利益率	9.8%	7.9%	—	9.4%	—
販管費	86	22	25.3%	42	49.2%
営業利益	53	2	3.9%	15	28.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	42	1	3.2%	10	22.9%
配当 (配当性向)	260円 (50.2%)	—	—	—	—

受注の現況 (個別)



(単位：百万円)

		2021/3期 Q 2		2022/3期 Q 2		
		実績	構成比	実績	構成比	前期比
建築	官庁	9,724	21.2%	11,492	22.7%	1,767
	民間	36,106	78.8%	39,043	77.3%	2,936
		45,831	100.0%	50,535	100.0%	4,704
土木	官庁	4,733	47.1%	6,524	83.4%	1,791
	民間	5,325	52.9%	1,295	16.6%	△4,029
		10,058	100.0%	7,820	100.0%	△2,238
建土	官庁	14,457	25.9%	18,016	30.9%	3,559
	民間	41,432	74.1%	40,339	69.1%	△1,093
		55,890	100.0%	58,356	100.0%	2,465

参考	2021年9月末時点の案件金額		
	個別通期計画	要 受注額	案件金額
	1,300億円	717億円	2,800億円

国内 建築リニューアル

(単位：億円)

	2022/3期計画	Q2実績	進捗率	2023/3期計画	2024/3期計画
受注高	200	98	49.0%	250	300
完成工事高	200	78	38.8%	250	300
営業利益	12.0	4.8	40.8%	14.5	17.4

目標

2024年3月期に国内のリニューアル事業の営業利益を連結営業利益の25%に

ASEAN リニューアル

	2022/3期計画	Q2実績	進捗率	2023/3期計画	2024/3期計画
受注高	14	7	50.0%	65	66
完成工事高	18	8	46.8%	63	66
営業利益	0.5	0	16.0%	5.6	6.3

目標

2024年3月期にASEANのリニューアル事業の営業利益を連結営業利益の10%に

— 基本方針 — 浅沼組らしさ(独自性)を深耕させ 「変化に挑戦」

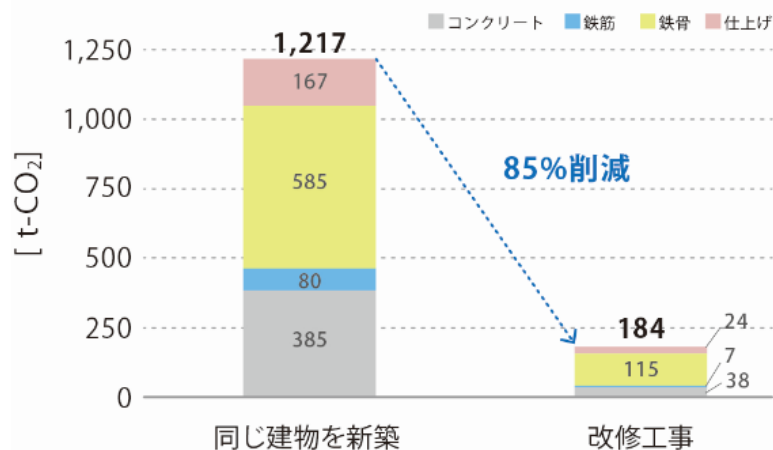
外部環境変化への挑戦	★ 長期的に縮小する国内建設投資とインフラ・建築構造物の老朽化により堅調に推移する国内維持・修繕事業投資
	<ol style="list-style-type: none"> 1. ASEAN地域におけるリニューアル事業への取り組み強化継続等 2. 『ReQuality』リニューアルブランド戦略の推進等
	★ 建設分野における生産労働人口の減少
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 独自技術である「Ai-MAP SYSTEM」の高度化等 2. 協力会社との協働推進
資金投入計画	★ 非財務経営活動(ESG・SDGsなど)による企業評価向上の機運
	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「E」：エコフレンドリーASANUMA21の推進等 2. 「S」：『ReQuality』の一環でWELL認証の取得等 3. 「G」：政策保有株式の削減
	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 技術開発・ICT関連投資 : 30億円 (耐震・免震技術、Ai-MAP SYSTEM高度化、環境関連技術等) ◆ 新領域関連投資 : 50億円 (ASEAN地域リニューアル事業拡充、コンセッション事業推進等)

9月から名古屋支店をショールーム化

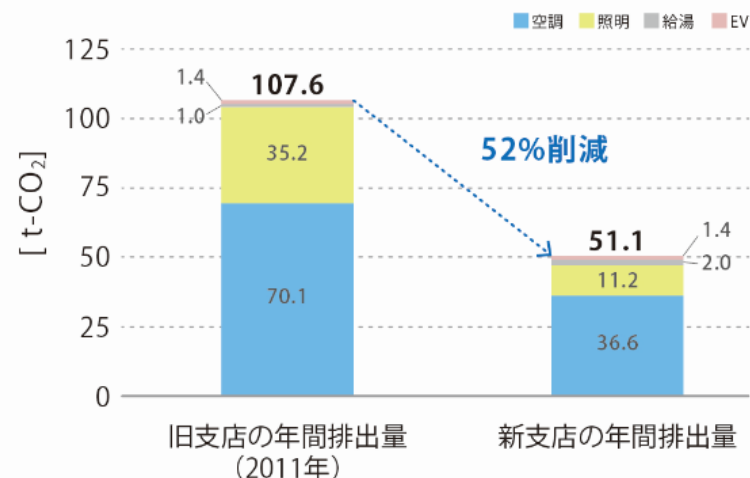
リニューアル工事の特徴（脱炭素と資源の循環）

- ・新築として建て直す場合と比べ、CO2排出量を**85%削減**
- ・改修前に比べ、エネルギー消費量を**52%削減**、**ZEBready認証**を取得予定
- ・健康・快適性を基準に建物を評価する**WELL認証**を取得予定（予備認証取得済み）
築30年のビル全体をリニューアルし、正式認証を受けるのは**日本初**

建設時CO₂排出量比較（躯体+仕上げ）



運用時CO₂排出量比較（電力使用量）



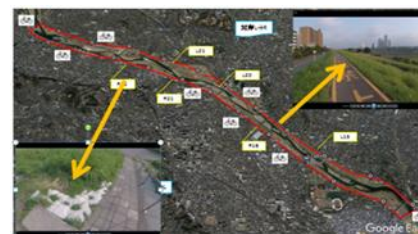
DX推進へ

- ・ 熟練技術者の動作・行動・音声をデータ化し分析
- ・ 遠隔地からの現場管理
- ・ 発注者や監督官庁などとの情報共有

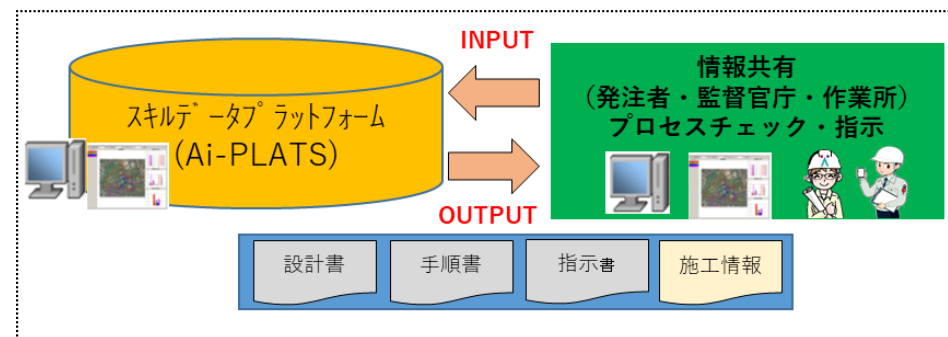
技能伝承



遠隔管理



情報共有



事業化への取り組み

現在事業化へ向けた地方の建設会社からのニーズ調査と事業計画策定に着手

取り組み	内 容
<p>作業所生産性向上策表彰 及び発表会開催</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各作業所における協力会社との協働による生産性向上策を募集、表彰、発表会開催（コスト削減、工期短縮など）
<p>外国人受入支援窓口・ 外国人相談窓口の設置</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2019年に「特定技能」を持った外国人労働者の受け入れを希望する協力会社への受け入れ支援の相談窓口を設置 2021年より新たに「特定技能」を持った外国人労働者からの相談窓口を設置
<p>建設キャリアアップシステム（CCUS）の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 建設業の魅力向上に向けて、建設技能者の処遇改善、キャリアパスの明確化、施工能力の見える化を目的としたシステム
<p>浅沼マイスターの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> 協力会社の職長の中から浅沼マイスターとして選任 奨励金の授与を行い賃金面からの処遇を改善

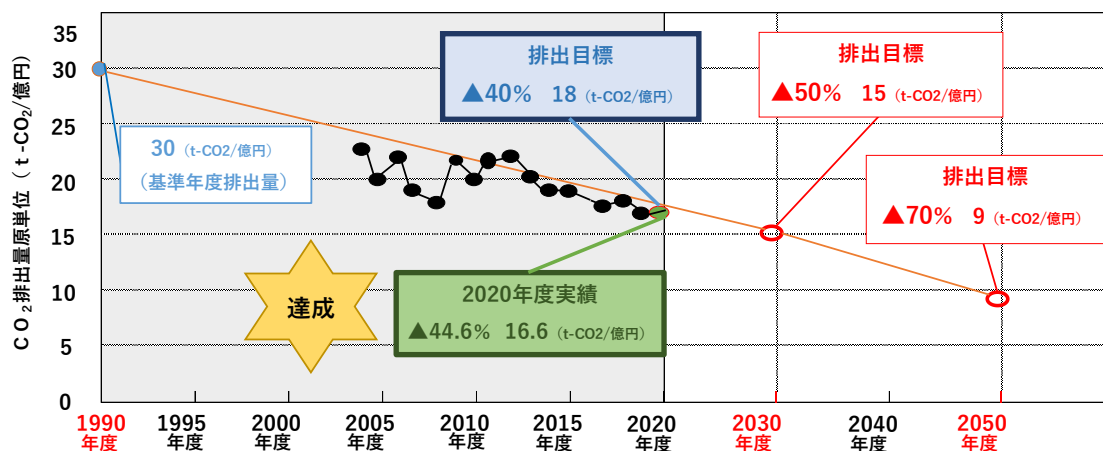
基本方針

「脱炭素化の推進」、 「資源の循環」、 「自然・社会との共生」

長期CO₂削減目標

「施工高1億円当たりのCO₂排出量を1990年度比で2030年度までに**50%**、2050年度までに**70%**削減」

CO₂削減の推移




作業所での取り組み

エコフレンドリー-ASANUMA21

現場で取り組むSDGs

- 12 分別の徹底
- 13 気候変動の抑制
- 3 気候変動の抑制 (騒音・振動の抑制)
- 6 水の持続可能な利用 (排水管理の徹底)
- 13 気候変動の抑制 (低燃費運転実施中)
- 15 陸域生態系の保護 (有害物質の適正処理)
- 9 産業とイノベーションの進歩 (ICT化の推進)
- 11 持続可能な都市とコミュニティ (アイドリングストップ)

Asanuma

新たな取り組み	内 容
<p>サステナビリティ推進 委員会設置</p>	<p>1. 設置の目的 企業を取り巻く環境の変化を踏まえ、サステナブルな課題に対する活動計画を中長期的な視点で協議し、経営会議に答申</p> <p>2. 委員会の構成 代表取締役社長を委員長とし、企画関連や管理の各部長で構成</p> <p>3. 委員会の役割 次の事項を決議または審議し、事案によって経営会議に答申</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サステナビリティ推進に関する方針・戦略・計画・施策の審議及び答申 ・機関決定されたサステナビリティ推進に関する施策等の社内通知 ・サステナビリティ推進の実績評価及び報告 ・その他サステナビリティ推進に関する重要事項の検討
<p>2021年11月 TCFD提言賛同</p>	<p>○TCFD提言に沿って気候変動関連情報の開示を拡充</p> <div style="text-align: center;">  <div style="display: inline-block; vertical-align: middle; margin-left: 10px;"> <p>TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES</p> </div> </div>



新建築 10月号

生産の効率化とエラー防止対策に活用

浅沼組

浅沼組では、次世代への生産能力維持の取組みとして、熟練技能の蓄積とデータ活用によるエラー防止のアシストを具現化させる。匠のアーカイブシステムと称した「アイマップシステム (A i-M A P S Y S T E M)」の研究開発を継続している。データ活用を構成ツールとして、スキルデータプラットフォーム (A i-P L A T S) を開発している。ユースケースに合わせてさまざまな形式の情報をプラットフォーム上でピックアップし、現場情報の収集や遠隔臨場検査などへの活用と成果品としてのデータの自動編集や類似案件への適用により、生産の効率化とエラー防止対策

に活用させる。また、独自の通信システム (A i-T E C) との併用により、非接触下の環境においても現場臨場感を共有でき、リモート業務を含めた生産管理とスキルアップの効果を得ることができる。事例として、橋脚工事や河川施設点検における施工管理の試行により効果を検証している。

建設生産の自動化やデータ活用による、施工速度の向上や効率化の進展は、今後も継続的な生産革命としてうかがえる半

面、データのみでは推し量れない部分も依然として多く、その補てんは従前のスキルによる判断が欠かせない。それらを考慮し、アサヌマモデルの建設DX推進として、アイマップシステムによるデジタルライゼーションの実行に加え、技術者の気付きを促進させる、デジタルとアナログのハイブリッドによる独自技術との融合により、次世代へ継承させる新たな事業化モデルとしての生産革命を目標にまい進している。

アイマップシステムによるデジタルライゼーション(イメージ)



2021/9/29 日刊建設通信新聞社



株式会社 浅沼組

2021年11月12日

誇れる歴史がある
創りたい未来がある



お問合せ先

コーポレート・コミュニケーション部

T e l 06-6585-5500 F a x 06-6585-5556